

(様式第1号)

## 自己評価及び外部評価結果票

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4190700031		
法人名	有限会社 さわやか 門前		
事業所名	グループホーム 浜		
所在地	佐賀県鹿島市浜町乙2591-1		
自己評価作成日	平成24年3月13日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.espa-shiencenter.org/preflist.html">http://www.espa-shiencenter.org/preflist.html</a>
-------------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成24年3月28日	外部評価確定日	平成24年5月9日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>○一人ひとりがゆっくり、楽しく、穏やかに生活されるように、相手の気持ちを良く聴いて支援している。 ○月に一度か二度のピクニック(のみの里、東与賀町のシチメンソウ、割烹花佳、武雄ゆめタウン、旭ヶ丘公園、大村のシュシュ、武雄温泉ハイツ、肥前浜宿の散策、佐賀県立宇宙科学館、裕徳神社の日本庭園など) ○地域の方との「認知症を知る会」を開催。 ○書作、ビデオ、カラオケ、計算ドリル、音読などの日中活動。 ○一月ごとの写真入りおたより。 ○保育園、小学生、カラオケ教室の皆さん、踊り、三味線などいろんな方が来られ皆さんで楽しんでいる。 ○年に一回落語会でも地域の皆さんと共に楽しんでいる。</p>
--

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>ホームは、酒蔵など歴史ある建物が立ち並ぶ街の通りにあり、周囲を民家に囲まれ、長年慣れ親しんだ生活の匂いと共に落ち着いて温かく感じられる。地域の方との交流も積極的で、運営推進会議を通し、防災訓練や「認知症を知る会」を開催し、認知症啓発活動も実施している。 入居者は月1回、ピクニックやドライブに出かけ、買い物や外での食事も楽しんでいる。職員は常に入居者の意向に沿った姿勢で関わり、入居者が穏やかに過ごされているのが窺えるホームである。</p>
---

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月1回のミーティングで話している。	理念は代表者の思いから作られている。家庭的な雰囲気での観点から、理念の掲示などはされていないが、地域密着サービスの意義や役割を踏まえ、毎月のミーティングで職員の意識を統一し、実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣保班の方と月1回の溝掃除に参加している。隣り近所の方より、野菜をいただいたり、ピクニックでいちご狩りをし、おみやげに配ったりした。	自治会に加入し、地区の清掃活動などにも積極的に参加している。近隣住民から野菜などいただいたり、施設からはピクニックに出かけた際に行った苺狩りで収穫した苺をお土産として、近所の方に配るなど、地域に溶けこんだ交流が実践されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年浜と古枝地区の公民館を借り「認知症知る会」を開いている。(3月17日上古枝公民館・3月20日北舟津公民館)		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	区長、老人会会長、民生委員さんから仕事内容や、地区の方の状況等を尋ね、グループホームとして出来る「認知症知る会」の参加に協力してもらっている。老人会会長さんはじめ8名の方がホームにカラオケに来ていただき入居者も楽しんでいる。	地区区長、民生委員、老人会長、消防団長、地域包括支援センター職員などの参加で2ヶ月に1回開催されている。年間計画を通しサービス状況の報告をしたり、直接意見交換ができる場として活用している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護の方がおられ、社会福祉協議会の安心サポートを利用され、ホームでのお便りを持参したり、ホームでの様子が解りやすいように配慮している。地域包括支援センターの方と共に「認知症を知る会」の開催に向けて協力し合い、取り組んでいる。	市町村担当者が運営推進会議のメンバーでもあることから、日頃から顔なじみであり、相談事も言い易く連携はとれている。認知症サポーター講座を開催の折も協力いただいている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全ての職員が理解しており、拘束をしないケアに取り組んでいる。	日中は玄関に施錠はなく、チャイムで対応している。職員は外部への研修会にも参加し、身体拘束の弊害について十分に理解しており、言葉による拘束もないよう常に心がけている。入居者の習慣や傾向を把握し、さりげない見守りなどで、安全に配慮し支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の防止に努めている。入居者の行動を出来るだけ見守り、必要な時は付き添ったりして対応している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用しておられた事もあり、司法書士の方に制度について学ぶ機会をもち、家族にも話し活用された方もおられる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行っているつもりではあるが、不十分な点、疑問点はその都度尋ねてもらえるように、話しやすい関係を保っていけるように努力している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	二ヶ月に1回の家族会への参加時や日常の面会時に生活状況等をお伝えし、要望などがあつた時は、早めの対応に心がけている。	玄関に意見箱を設置している。利用料を来所での支払いとし、家族が訪問時に意見や要望は些細な事でも聞き取り、要望があれば直ぐ管理者に報告し、できることから速やかに実践することで運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見等があつた時は、随時聞くように心がけ、対応困難な意見については代表者や事務長に伺ったり、全体会で話し合い協議し、反映させている。	月1回のミーティングや日常の業務の中でも職員が意見を出しやすい環境づくりがなされている。代表者は出された意見や要望に耳を傾けることでスタッフとの信頼関係が築かれている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人ひとりがいろんな研修に出来るだけ参加できるように計画したり、それぞれの希望に出来るだけ合わせた勤務を心がけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	いろんな種類の研修に参加されるように進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム交流会の勉強会に参加し、質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が困っていること、不安な事があった場合、どうしたら安心して生活してもらえるかを皆で話し合い、出来るだけ早く実現して、安心した生活を送られるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望等を良く聴きながら、ホームとしての説明もし、信頼していただけるように努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	言動や行動に見極めが難しいと思われることに対しては、家族へ確認したり、全体ミーティングなどを利用して、協議支援の方向性に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	高齢だったり、体も思うように動けなかったりと、ついお客様にしてしまっている。出来る事を少しずつしてもらい、職員は黒子になり共に生活する場を作るにはどうしたらいいか思案中である。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者が職員に言えないことを家族に話されたり、家族に言えないことを職員へ話されたりなどの場合、面会時や電話で情報交換している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来てもらいやすいように配慮したり、本人が電話をかけやすいようにしたり、家の近くまでドライブに出かけたりしている。	馴染みの美容院へ行ったり、近所の友人が遊びに来られるなど、これまでの関係が途切れないように支援している。彼岸参りや自宅への外出など個々の希望に応じて支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格等を考え、食堂のテーブルの位置を考えたりしている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人のところへ面会に行ったりするととても喜ばれた。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の希望を出来るだけ聴くように、そして生活しやすいように勤めている。	日々利用者とゆっくり向き合う時間を持ち、会話の中の一言や行動から、意向や希望を把握することに努め、利用者のこれまでの生活に合わせて支援している。ホームの家庭菜園での支援や書道や華道など一人ひとり趣味の活動の継続も支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者の生い立ちを家族に記録してもらい、今までどうゆう方だったのかを把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとり違って当たり前なので、その人の状態を考え対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティングで話し合い、家族の意見も聞きながら計画を作成している。	日々のケアで把握した入居者の意向や家族の希望を盛り込んだ介護計画を作成している。職員は日々のケアの中で入居者の変化を感じとるよう心がけ、介護記録に活かされている。計画の見直しは設定期間に拘らず、変化があればその都度対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	もっと柔軟に多機能化に取り組んでいければ、一人ひとりが充実し楽しく生活出来ると思うが、日中3人の職員では難しい。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の保育園や小学生がホームへ来られ楽しく交流をしている。年に1回避難訓練に隣保班や消防団の方に参加していただき協力してもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今までの長年のかかりつけの病院へ受診されるように勧めている。定期受診は出来るだけ家族にお願いし、無理な時はホームから付き添い協力し合っている。	入居時に家族に説明し、かかりつけの病院受診を依頼している。緊急時や止むを得ない場合はスタッフが付き添い受診介助を行っている。受診結果はその都度家族に報告している。また、訪問看護を利用し、医師への情報提供を行い、病状の悪化防止に繋げている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員や訪問看護師に相談し、適切な受診や看護が受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合面会に行き、先生の回診時に病状を尋ねたり、家族が出来ない時は必要な物をそろえたり、洗濯物を交換したりと本人や家族と相談しながらしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族会や面会時に看取りのあり方について今後も十分話し合っていきたいと考えている。	入居時に重度化した場合の説明をしている。これまでに看取りの経験はなく、本人や家族の気持ち、また、事業所の状況もその時々に変化していくことから、重度化された場合には段階的に話し合いをすることとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応、AEDを使用した訓練を年に1回消防署より指導を要請し実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に火災、水害等を想定した訓練を隣保班の方や、消防団の協力をお願いし実施している。	年2回の夜間も想定した訓練を入居者と共に全職員が参加し、消防団や地域住民の協力を得て行っている。消防署への通報はもとより運営推進会議で提案された、地域周辺に伝わる緊急時のサイレンでの通報も実施している。今年度より自然災害の訓練も同時に行っている。非常時の備蓄も整っている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は一人ひとりの性格を把握し、その人のその時々のお気持ちに寄り添った対応を心がけている。	職員は、入居者の一人ひとりの人格と誇りを傷つけないよう言葉かけや接遇にも注意し、日々のケアに臨んでいる。食事の場面では、職員の声かけも穏やかで入れ替わりもさりげなく対応されている。利用者の個人情報については理解し、写真の使用など取り扱いに注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉かけを大切にし、何かしてもらった時には感謝のお気持ちを出しながら、信頼関係をつくり、希望を表したり、自己決定しやすいように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調の変化等をみながら、本人の意思を尊重した支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧をされる方や枕元に鏡とくしを持っておられ、身支度をし食堂へ来られている。お出かけやピクニックの時は、スカーフなどおしゃれをして出かけられる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前の料理の下ごしらえやつぎわけなど、食後の食器拭きなどを職員と共に会話をしながら行う支援をしている。	入居者は、食堂兼リビングで過ごすことが多い。台所が側にあり、食事作りの様子を見て感じ取ることができる。入居者は調理された物を味見をしたり、注ぎ分けの手伝いをしたりしている。職員も同じテーブルで利用者に寄り添い一緒に食事をしている。月1回の外食する機会も楽しみなものとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べ残しがないように食べやすく工夫をしたり、水分量が少ない方には好みの飲み物を準備したり、夜間も飲みたい時に飲まれるように、湯さましをペットボトルに入れ準備している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は自力で口腔ケアされる方や介助が必要な方それぞれに言葉かけをし清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄に合わせ、見守りや言葉をかけながら介助をしている。夜間トイレの時間が長い方がおられ、トイレヒーターを置く。	殆どの入居者は、スタッフが排泄チェック表により排泄のパターンを把握し、昼夜共にトイレで排泄できるよう誘導し支援している。失禁された場合でもさりげなく誘導し支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	畑でとれた野菜など常に野菜を多く使用している。それで便秘の方は、かかりつけ医と相談しながら薬で調節してしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	一人ひとりのタイミングに合わせて入浴の支援をしている。	希望があればいつでも入浴できる体制になっている。入浴時間に余裕を持ち、職員と会話しながらゆっくり入浴ができるよう支援している。入浴を嫌がる入居者には、無理な促しはせず、タイミングを見ながら介助を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後の昼寝や、夜は一人ひとり休みたい時に休まれ、足が冷えて眠れないといわれる方には、湯たぼんを準備したり安眠できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用など理解しており、症状の変化を早く気づくことが大事であると職員皆が認識している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ホーム内で出来る事は出来るだけ実現しているが、一人ひとり会いたい人のところへ共に出かける事が思うように出来ていない。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホーム皆でピクニックを計画し月に1回出かけているが、これからは本人が行きたいところへも行けるように支援していきたい。	天気の良い日は出来るだけ外に出るよう支援している。月に1回はピクニックやドライブを計画し、外食したり買い物などすることで入居者も楽しみにされている。	



自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金やさいふをなくしたといわれる方は、預かり時々見てもらい安心してもらっている。自分で持っておられる人もおられる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は希望されると自分でもしてもらえるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活感や季節感を取り入れた飾りなどをし、居心地よく過ごされるように配慮している。	窓からは、さわやかな風が通り、明るく、ゆったりとした共用ルームで室温管理も整い、入居者は穏やかに過ごされている。居室空間の壁には、入居者の方の作品の習字や絵などが掲示され、落ち着いた雰囲気となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居場所の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具などを持ってきていただいたり、本人が居心地よく過ごせるように工夫し支援している。	利用者の居室は、家族の写真や華道の特技を活かした生花が飾られたり、それぞれ趣の違った家具の配置や使い慣れた生活用品が整えられている。身体の状態に合わせた安全対策を行い、居心地のよい生活空間ができています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下にはテスリをつけ、居室を掃除される方はほうきを置き、朝起きてから掃除をしておられる。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目))(事業所記入)  
 ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。  (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。  (参考項目:18,38)		1. 毎日ある
		○	2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。  (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。  (参考項目:36,37)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。  (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。  (参考項目:30,31)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない